



すべての革新は患者さんのために



Roche ロシュグループ

2015年11月9日

報道関係各位

興和株式会社
中外製薬株式会社

選択的 SGLT2 阻害剤「デベルザ®」のライセンスに新たな進展 ～欧米における開発および販売に関するライセンス契約の締結について～

興和株式会社〔本社：愛知県名古屋市／代表取締役社長 三輪 芳弘〕（以下、興和）と中外製薬株式会社〔本社：東京都中央区／代表取締役会長 最高経営責任者：永山 治〕（以下、中外製薬）は、中外製薬が創製し、現在、国内において 2 型糖尿病を適応症として興和が販売している選択的 SGLT2 阻害剤「デベルザ®錠 20mg」（一般名：トホグリフロジン水和物）の欧米における開発および販売に関するライセンス契約を本日締結したことをお知らせします。

本契約により、興和は、欧米における「デベルザ®」の独占的開発権および販売権、ならびに本製品の合剤の独占的研究・開発権および販売権を取得します。一方、中外製薬は、製剤および原薬の供給を行い、本契約の対価として契約一時金、所定のマイルストーンおよびロイヤルティを興和より受領します。

「デベルザ®」は、中外製薬が創製した選択的ナトリウム・グルコース共輸送担体 2（Sodium-glucose cotransporter 2: SGLT2）阻害剤で、腎尿細管におけるグルコースの再吸収を阻害することにより、血液中の過剰なグルコースを尿へ排出させ、血糖を低下させる薬剤です。欧米における本製品の臨床開発は、2009 年に、中外製薬および戦略的アライアンスを締結している F. ホフマン・ラ・ロシュ社により、2 型糖尿病患者さん約 400 例を対象に第 II 相国際共同治験が実施されています。

興和および中外製薬は、「デベルザ®」が、糖尿病治療薬の新たな選択肢として欧米の糖尿病患者さんに貢献できるものと期待しています。

なお、中外製薬は国内において、興和の他にサノフィ株式会社とトホグリフロジン水和物のライセンス契約を締結しています。

以上

興和株式会社について

1894年に綿布問屋として名古屋市で創業し、関係会社約100社を有するグローバル複合企業グループとして展開しています。主に医療用医薬品・OTC医薬品・ライフサポート品・環境関連製品(LED照明・再生可能エネルギー発電システム)等の製造販売を行うメーカー部門と、繊維製品をはじめとする生活物資や機械・建材・化学品等の販売を行う商社部門において、積極的な事業活動を展開しています。医療用医薬品事業につきましては、高コレステロール血症治療剤「リバロ」、糖尿病治療剤「デベルザ®錠」、「スイニー®錠」、世界初の作用機序を有する緑内障・高眼圧症治療剤「グラナテック®点眼液0.4%」などを、興和創薬株式会社を通じて情報提供活動を行っています。研究開発面では高脂血症治療剤「K-877」(SPPARM α)を製造販売承認申請中です。OTC医薬品・ライフサポート品事業につきましては、興和新薬株式会社が「キャベジンコーワ」、「バンテリンコーワ」、「三次元マスク」などを提供することで、生活者の健康の維持と管理に役立てていただいております。

興和に関するさらに詳しい情報は <http://www.kowa.co.jp/> をご覧下さい。

中外製薬について

中外製薬は、医療用医薬品に特化し東京に本社を置く、バイオ医薬品をリードする研究開発型の東京証券市場一部上場の製薬企業であり、ロシュ・グループの重要メンバーとして、国内外で積極的な医療用医薬品の研究開発活動を展開しています。特に「がん」領域を中心に、アンメット・メディカルニーズを満たす革新的な医薬品の創製に取り組んでいます。

国内では、御殿場、鎌倉の研究拠点が連携して創薬研究活動を行う一方、浮間では工業化技術の研究を行っています。海外では、シンガポールに拠点を置く中外ファーマボディ・リサーチが革新的な抗体創製技術を駆使し新規抗体医薬品の創製に特化した研究を行っています。また、米国と欧州では、中外ファーマ・ユー・エス・エー、中外ファーマ・マーケティングが臨床開発活動を行っています。2014年の連結売上高は4,611億円、営業利益は773億円(Coreベース)でした。

中外製薬に関するさらに詳しい情報は <http://www.chugai-pharm.co.jp/> をご覧下さい。

本件に関するお問い合わせ先	
興和株式会社 広報部 Tel : 03-3279-7392	中外製薬株式会社 広報 IR 部メディアリレーションズグループ Tel : 03-3273-0881